地域医療の将来 楽しみ

東濃中部医療センター・森島病院長

今年2月に開院した公立東濃中部医療センター（土岐市肥田町浅野）の新病院長に今月1日、岐阜市出身の森島逸郎さん(59)が就任した。大垣市民病院で25年以上の間、循環器や不整脈治療を中心に高度専門医療や救急医療、病院運営に携わってきた。「（同センターの）伸び代は大きく、これからどこまで到達できるか非常に楽しみ」と心境を語った。

同センターは、土岐市立総合病院と東濃厚生病院（瑞浪市）が統合される形で誕生した。東濃厚生病院がなくなった瑞浪市民には不安の声もあったが、森島さんは「（同センターは）土岐、瑞浪の両市民の健康を守る拠点として確立するのが第一」と力を込める。

最新の手術支援ロボットや放射線治療装置、リハビリ支援機器など、「充実した施設や設備をいかに最大限生かし、地域へ還元するかが課題」。同センターの開院により土岐・瑞浪両市内で再開した分娩・周産期医療や救急患者の応需率（受け入れ割合）の向上など、少子化・高齢化の中でも地域で完結した医療体制を目指す。

「常にチャレンジする方向を選んできたと思う」と医師としての歩みを振り返る森島さん。新しい病院から地域住民や医師、医療スタッフら皆で地域医療をつくり上げていくことに大きな魅力を感じたという。

「地域医療と専門的な医療をつなげていくことが大切。地方でも都市部と同等のレベルの医療を提供する必要がある」

東濃地域では中津川市の坂下病院（現在の坂下診療所）や土岐市立総合病院での勤務経験がある。「人口に対して医師が少ないのが現状」だという東濃地域全体の中で、脳梗塞、心筋梗塞の緊急治療や災害時の患者受け入れ拠点として同センターの持つ潜在力を高く評価する。来月、東濃厚生病院の跡地に開院する「とうのう診療所」との連携も含め「各病院が機能分担し、標準的な治療を円滑に提供できる体制を築きたい」と決意を語った。

（溝口正晃）



新病院長に就任し、思いを語る森島さん＝土岐市肥田町浅野の公立東濃中部医療センターで

もりしま・いつろう　1966年、岐阜市生まれ。岐阜高校から名古屋大学医学部に進学し1991年に卒業。循環器診療、特に不整脈の専門医として大垣市民病院では循環器内科部長、副院長を歴任し、現在、日本不整脈心電学会の理事を務める。心臓にカテーテルを入れて不整脈の原因となる部分を焼灼して取り除く「カテーテルアブレーション」では約8千例の経験を持つ。